

## 編集後記

千葉工業大学 田隈 広紀

P2M マガジン 8 号をお読み頂き有難うございました。今号は恒例の研究発表大会顛末記（慶應義塾大学での秋季大会）、開催予告（千葉工業大学での春季大会）の他、当学会監事の白井久美子様のハーバード・ビジネススクールエグゼクティブプログラムでの留学体験記、亀山秀雄先生の巻頭言、梅田富雄先生と吉田邦夫先生のコラム等での時流を捉えた情報提供等、充実した内容となっております。まだ読んでいない記事がありましたら、是非お目通し下さい。

本記事は 8 号発刊直前の 3 月 6 日に作成しており、今現在、新型コロナウイルスの影響で世界中の人・組織の生活が一変しています。人が集まるほどリスクが高まるバイオハザードに直面し、人や組織のマネジメントを探求する学会にはどのような期待が寄せられるでしょうか。特に当学会は経済活動に留まらず、地域活性化、教育、国際援助等、幅広い領域のマネジメントを研究対象としています。私自身今すぐこの問題の解決に貢献できるような手段は持っていませんが、今回の実体験を今後の研究活動に織り込んでいきたいと思えます。例えば Face to Face と電子的なコミュニケーションの場の間で発生する差異を埋めるような技術確立できれば、さらにこのような技術を

基に開発された遠隔コミュニケーションツールを開発し、企業や学校へ導入・定着させる手法と共に提案できれば、経済・教育活動の停滞を軽減できたかもしれません。

唐突ですが、文字はいまから 5000 年前に、メソポタミア地方で生まれたようです。それ以降、知恵や感情の記録と伝承が可能になり、飛躍的に技術・芸術が進歩していったとされています。そして今では、世界中の優れた技術・芸術に、簡単にアクセス可能になっています。こうした中で、より良い情報を選択、解読、活用するリテラシーを獲得する重要性は、誰もが感じていることと思います。また、自身の経験と創意工夫による解決策を記録し伝播させることは、人類共通で価値があるはずです。そして情報リテラシー獲得と新たな知恵の創造・伝播に最も適した方法は、自分自身が論文を執筆することではないかと感じています。

新型コロナウイルスの問題が一日でも早く終息することを願うと同時に、学術研究の価値を再認識し、今後の研究活動に一層の意欲を感じております。末筆になりましたが、皆様の無事息災を心より祈念申し上げます。

2020 年 3 月 6 日受理